



大和名所圖会 六

部	
類	
冊	號
架	函
—[三宅氏藏書]—	

ル 4
4695
7



門ル4
號 4635
7

竹元院 勝子社より市子社全剛を以て 當院より 朝卿乃作教書

菅坂町とて喜藏院の次あり 義経追討の 射御新流の一卷あり 院後藏の内射御乃

書簡あり 名無言あり吉足和佐



権書白目藏 二女の財也とて 道賢法師といふとて 乃人より 密教

中ぬひのありぬとて 故卿一ゆり東寺より 密教を授け

其後を授けしとて 密教を授け

布引櫻 さくらがけり

布引の櫻を以て 根より谷のまきとて

布引の櫻を以て 根より谷のまきとて

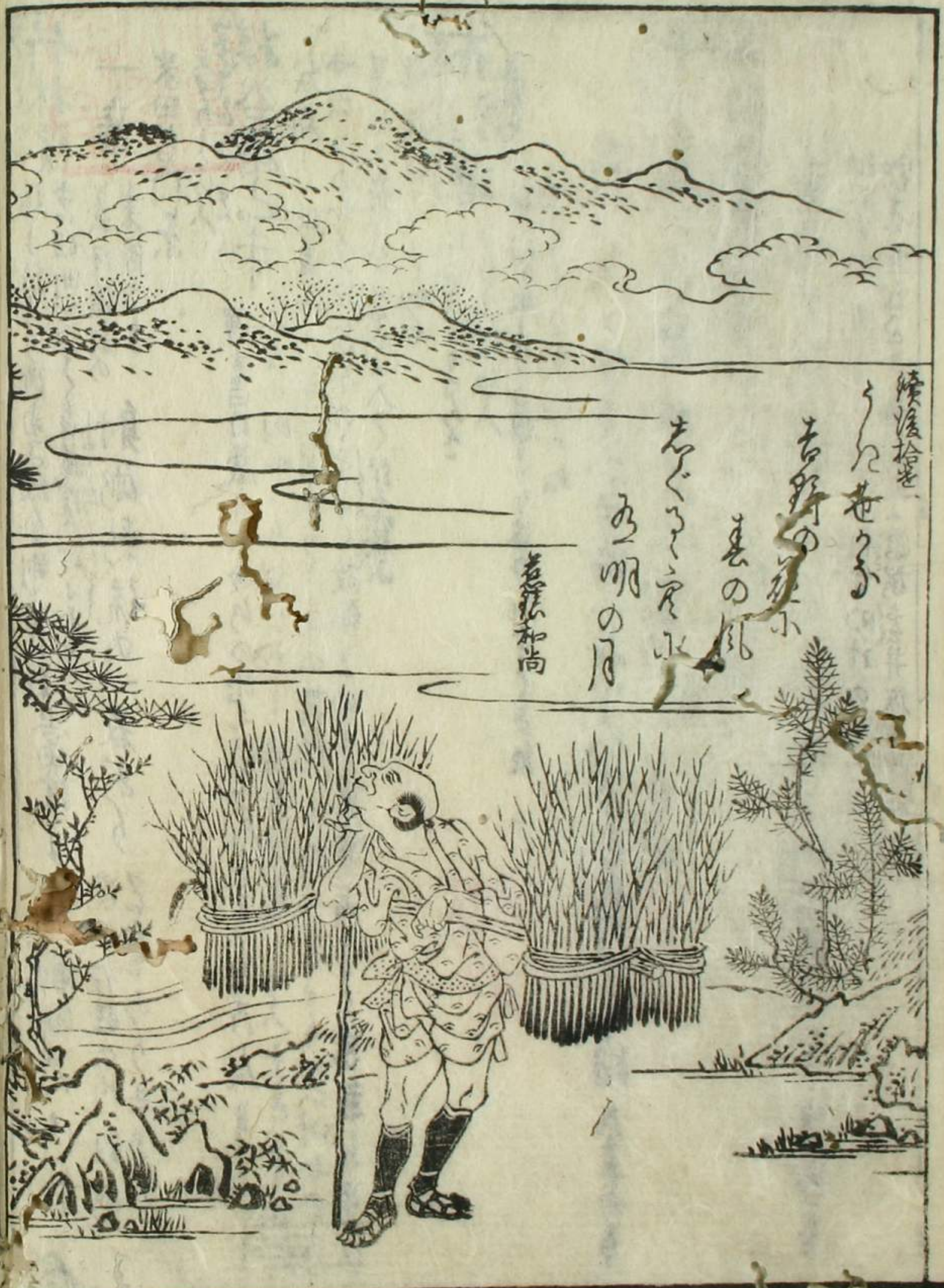
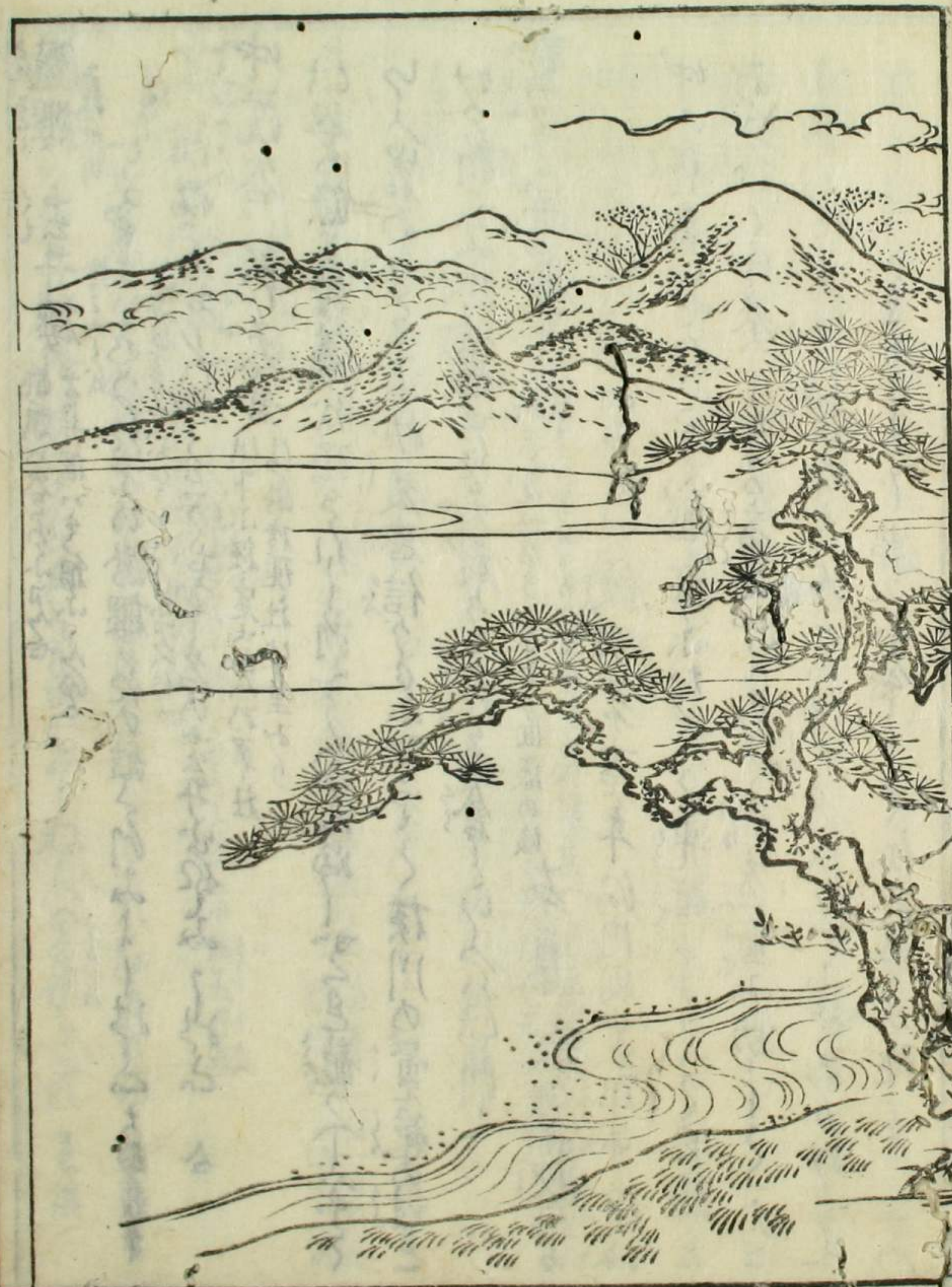
天皇橋 天皇櫻 梵天社 後

雨師模範者堂 西の谷

十里の丹生の川上迄あり

観音堂なる西の谷

早稲田大学 図書館
照 36. 6. 21 雙
藏 書



倭後拾遺

くはせくふ

吉野の松

表の松

志らくく水

あ明の月

善松和尚

備後 志井櫻 備後志井の志井櫻

志井櫻 志井櫻の志井櫻

中院谷 花久倉 中院谷の花久倉

け谷の源義経身は隠されし所をいふふゆりやと龍う下さく

り人等ありとを依る忠信がふふゆりやと横川の寛範の清

けの所へ又忠信ゆせたる対たる花久倉といふけ所へ

鷲尾山世尊寺 鷲尾山世尊寺

阿難迦乗之採花 阿難迦乗之採花

仲小梵音 仲小梵音

あざむく仲奏しなる帝 あざむく仲奏しなる帝

しめらる直尋海入 しめらる直尋海入

とららるる佛 とららるる佛

今の志井ち乃樟木の併像 今の志井ち乃樟木の併像

釋書 釋書

忠盛 忠盛

辰の尻 辰の尻

子守神祠大宮之座 子守神祠大宮之座

牛頭王神祠 牛頭王神祠

高城 高城

高城 高城

拾玉 拾玉

えららるる谷 えららるる谷

えららるる谷 えららるる谷

躰獨固 遙谷

お小あつと志野のたもとすか井のつゝ一園のふふりて大御言掛奉
むりれぬる申す小あつとくたを

岩倉谷

相対せり標を

金精大明神社

神名帳曰金峯神社吉野之の地主神とて金御嵩の號
又同年の秋八月... 高きあり

金御山嶽

拾苾抄曰金峯とて黄金の峯也

傍正はし金の峰人々を金剛藏王とて... 信實

踏ぬけれ塔... 夫木

飯高と安禪寺寶塔院本尊と一丈の藏王権現... 奥ふあり

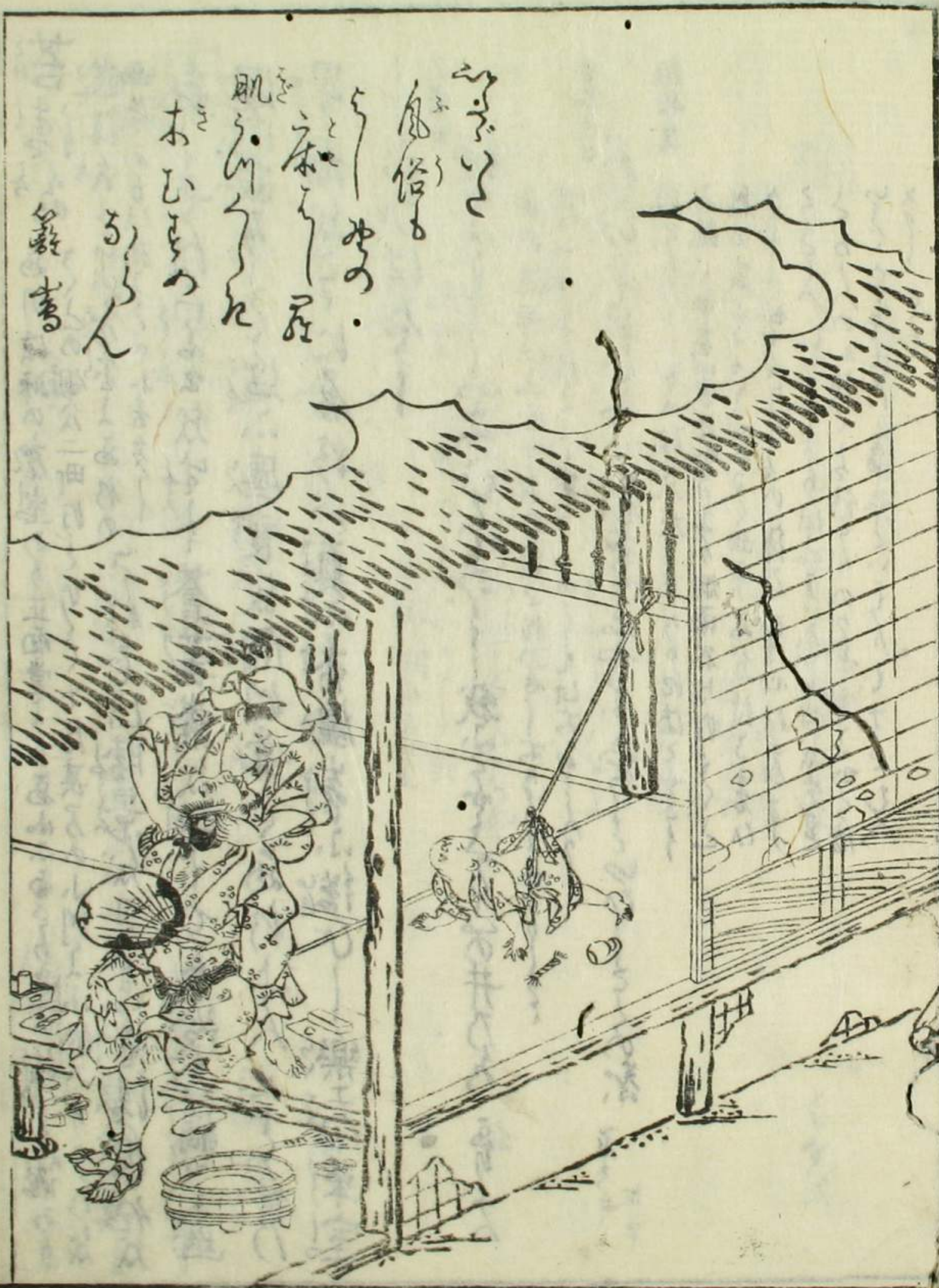
其傍小藏王堂あり

音根我峯... 依保那の村

依保那の村と奥の音根峯... 公実

依保那の村と奥の音根峯... 公実

依保那の村と奥の音根峯... 公実



義書
 おいもの
 ぶん
 肌
 床
 角
 俗



さうりべー勝のうへありとら琵琶とていけ勝のまは音無はら
くお新のまふ一川を紀別能新あり

義經記曰く紀別能新一川あり吉野川のまは上流とて東に流しやみせり
の別あり上を遠しと名のまはとてふふはむらりてまのいもゆな
勝石の勝能はまはとていけ勝のまは音無はらとていけ勝のまは
は勝能はまはとていけ勝のまは音無はらとていけ勝のまは音無はら

新撰古今
吉野川がうへに流るは乃白糸 延喜所製
吉野川がうへに流るは乃白糸 延喜所製

雄略天皇四年一川の宮乃新あり
新撰古今
吉野川がうへに流るは乃白糸 延喜所製
吉野川がうへに流るは乃白糸 延喜所製

狭猪 待也
そのあぬと 其枕 蛙吟 置 大和也

中門新入也 謂仕 名形 置 大和也
つげあぬと 蛙吟 置 大和也

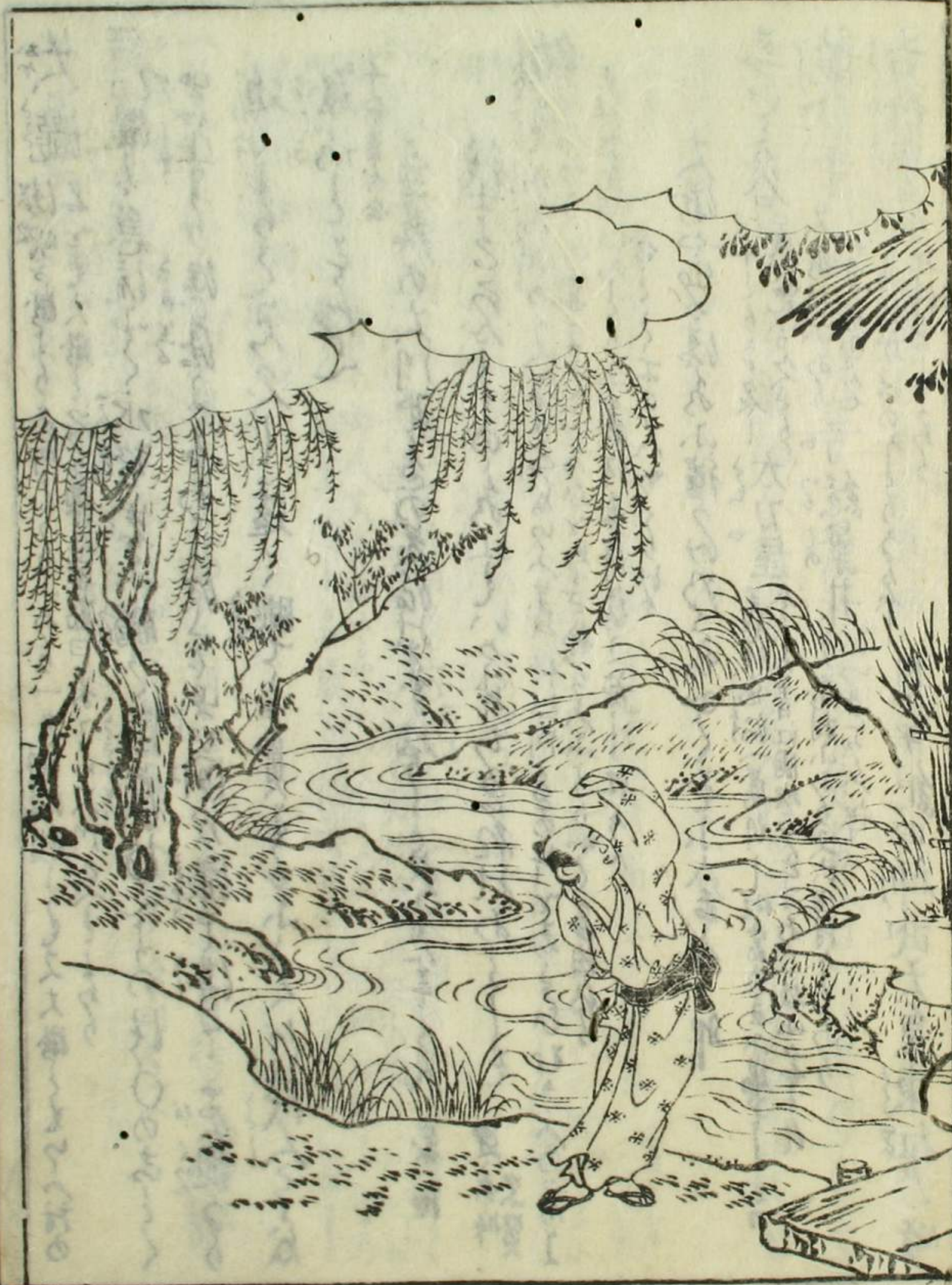
新撰古今
吉野川がうへに流るは乃白糸 延喜所製
吉野川がうへに流るは乃白糸 延喜所製

或曰く吉野川は勝能のまはとていけ勝のまは音無はらとていけ勝のまは音無はら
新撰古今
吉野川がうへに流るは乃白糸 延喜所製
吉野川がうへに流るは乃白糸 延喜所製

白倉の上 吉野川がうへに流るは乃白糸 延喜所製
新撰古今
吉野川がうへに流るは乃白糸 延喜所製
吉野川がうへに流るは乃白糸 延喜所製

無名川 吉野川がうへに流るは乃白糸 延喜所製
新撰古今
吉野川がうへに流るは乃白糸 延喜所製
吉野川がうへに流るは乃白糸 延喜所製

新撰古今
吉野川がうへに流るは乃白糸 延喜所製
吉野川がうへに流るは乃白糸 延喜所製



新法拾遺

いづれをよめ 秋は小

かたむねれ

かひこも

あへん

うた名

まゝん

乃妻法師

大瀧 瀧 名も大瀧と云り頭住密助曰ふ大瀧のふりあり

け瀧と急流と水勢岩小觸く漲るはゆりのほのあはく
岩上より流落するあはくは岩向に漲り沸く

近くよりくまぐらへ遠く眺てを賞するふくは茂人との
鑑海とよき

二芳野の大川せきのははれまはるくふくはとらん 泉滝

筏士と云るふのあ上といふ計ちるたれあはく

鎧嶽 西の嶽のうらさかふかひ 義経は川をの竹とまはひひふの者
老孫路記曰けやより小義経と孫路一旅一終らん

大瀧やゆるはあ小瀧くはゆるをわくと小倉とく年

志のり谷 義経記に云く 大刀屋 義経西の嶽のり 所高のま小瀧

龍泉寺 大瀧村小あり 弓絃葉井 大瀧村小あり 日平 紀曰神武天皇東征乃時

吉野皇居 秋津宮と云り

経波津小洗く名はひ射駒着城分然紀伊國と経く吉野小出心

官軍と相練し経く吉野の定めの人其後應神天皇も

くふりあわりく國栖人こそすなむあり又は信長天皇も吉

野の宮一みゆさかい一はく

ふん人のうらとくははとひ吉野とくはとく人君

向松様業巨老孫宮と神代よりと海と二首あり神武天皇の御火の標本宮小

御影石 坂谷村小あり高一丈竹南帝王の祠と称す後醍醐天皇七の宮より

逃れ甲斐の所本邑の御民大を助入布しと乃逆賊を殺し宮乃

小御村新川ちあり

のうねとくは心とあはく

琵琶 多古村小あり 高二十餘丈大瀑と云く

井光宅 礎村小あり 由縁吉野郡の

釋迦岩窟

和田村小あり 深サ二十丈

國見

伯母谷村の西南小あり 巖窟深一丈餘 探入りて西南に懸く 峯中より

竺岩室

國見の腹に 祈る日藏上人のこりたり 祈之日藏

雀院の沖子あり

威表 洞道の後吉野に 播磨寺に 後之

窟小入る言断念

眞士小あり 日藏王菩薩金象の降七

とる各あり 志のこころに 日藏九年 月王護の短札

世尊神ふはり 久なり くの短札 八字の註釈 道の賢の四々

あつらひ 日藏の けり けり けり けり けり けり けり けり

小人あり けり けり けり けり けり けり けり けり

配流の けり けり けり けり けり けり けり けり

うけ けり けり けり けり けり けり けり

老を けり けり けり けり けり けり けり けり

けり けり けり けり けり けり けり けり

威表 後小十 日藏 けり けり けり けり

内院の 樂な 和刺 けり けり 見佛 眞法 樂と 樂と

司藏上人 岩窟 小籠 けり けり 四五 歳か 展 けり けり

量億 功の けり けり けり けり けり けり けり けり

寂莫の けり けり けり けり けり けり けり けり

金象 けり けり けり けり けり けり けり けり

千載 けり けり けり けり けり けり けり けり

王 けり けり けり けり けり けり けり けり

風推 けり けり けり けり けり けり けり けり

彩後 拾 けり けり けり けり けり けり けり けり

今 けり けり けり けり けり けり けり けり

朝日岩窟 驚岩窟 共小國 見の けり

朝日岩窟 驚岩窟 共小國 見の けり

朝日岩窟 驚岩窟 共小國 見の けり

朝日岩窟 驚岩窟 共小國 見の けり

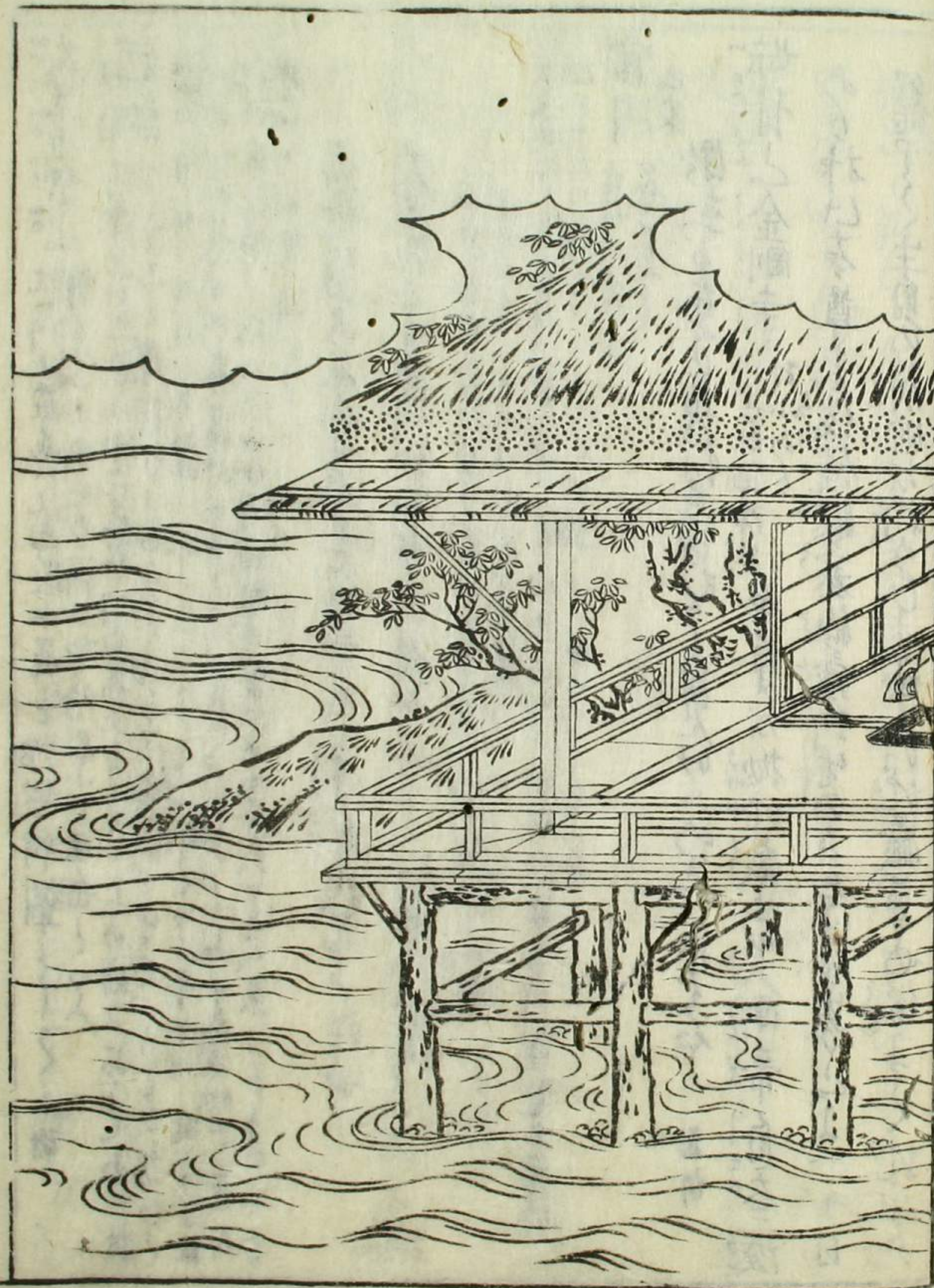
朝日岩窟 驚岩窟 共小國 見の けり

朝日岩窟 驚岩窟 共小國 見の けり

朝日岩窟 驚岩窟 共小國 見の けり

朝日岩窟 驚岩窟 共小國 見の けり

朝日岩窟 驚岩窟 共小國 見の けり



みづの
 ほとけの
 かみざり
 らるる
 師
 子
 子
 子

遠く東の白雲

大臺原北河上莊あり北と莊小属と砂金新集

巴大臺原の巴嶽あり古群川のありし人を通入西もあり

古群川そのありなるむら乃東林はるはゆ

大臺原より名にのありて熊中ふり此の宮川

いかに古群川の記小載くありは所とあり撰集に云は

古群川古群川のあり

宮川古群川のあり

熊中古群川のあり

妹背川上莊神孫谷

あり拵は本尊と後優婆塞海産利生のく小金中より十日

籠りて生身の薩埵の祈ひし小川地蔵尊の像より地蔵

涌出涌出のあり

の流生いぞり利益ありて地蔵尊のありし

大正記大正記のあり

鹽塩のあり

菊岩窟正善山岩窟

不動岩窟不動岩窟のあり

ありの源源のあり

柏木坐神祠柏木村小あり十二社権現と称と

國栖國栖のあり

小古群宮小古群宮のあり

時必栖人時必栖人のあり

一夜酒一夜酒のあり

くろけいごど人の墓なるく喰ふ蝦蟇なる者ふ名とば毛跡とまら
けく賞味なるく喰けること也若那のほよわく嶺ありく
谷原よりけり所るしむ路さうく竹久小常ふ末朝とるるす叶
とまん中ける其後常ふ参る年魚申すのそのか軟けるや心や
今の國栖の奏とく可ん概ひ洋かふれらるるはと若那より
年始とまるとく心より云々又延喜内式の部にも

源平盛表記曰吉野國栖とく舞人より國栖人の姓より津戸京の
天皇大伴王子小龍とく若那の奥小籠とく若那の中小志のし清なけ
は小國栖の若粟の御料小ウグヒといふ魚と具して供御小使なる
朕帝位小上らば若と供御とく石とんとの公卿ありける後大伴王子
か誅御位小尋若とく石とくより公卿元日の清祝めを國栖乃
公若参る桐竹小鳳凰の装束か若とく舞とく也豊の明れ五節より
け若参る葉の御料小ウグヒの魚と持参る清祝小進は殿上

より國栖とるはの時に聲より清若かすは清かゆく系はこ
け若の参るゆ中より五節始るのふ

吉野記曰大伴王子國栖二里ありは若天皇は新へ遷せを人あり乃
若船の簾が中調ゆへ小供所の若りなるあやふ下りしは月小くち
は若所代より出給る魚いさく人より参るとんは若人より中より
そのすくいさく人より若かく神代小出さる人定は國栖のくくこと
今小末くすく修正といふ
吉野記曰國栖は若内若今若若かう人のけ清よりむ

ちりちりとゆいふる國栖の清より若れは今さうらあり 大納言 雅章
御垣原 清見末天皇おしはりりり小若垣原とく名新ありとく清
は海抄曰清垣原とく若新とくわく清垣小
は清垣原の清

若里の刃垣原若れは若系んとちせ秋のまゆり 家清
若れは若も若も若も人ぬまゆり中の清垣原若ふ若葉若てん 俊成
今より若若葉若へさなつの清垣原若り若ち若りは 入道若 若政若
若の中も若の知り若ることの清垣原若れ若の若 若氏



續後拾遺
 白鳥の神々々々
 若ふつむ
 御揃り
 京の
 梅の
 花
 定家

耳我嶺 窪坂内村の上方小あり 山勢盤紆 みく 出晴の地 一説小吉群

加茂真御曰御岳嶺て人意思よりなり 小耳我嶺 小あり 山勢盤紆 みく 出晴の地 一説小吉群

國栖 南國極村の上方小あり 峯巒疊嶂 みく 四時

小牟漏岳 村の上方小あり 青峯高聳 聳 嶺

丹生神祠 小村あり 小川莊七村の

象 喜佐谷村上方小あり 八雲所曰象 象 象中 象

新傳 大和後小村 と道 汲小りの象 の中 象中 象

象小川 名原青根嶽よりあり 外巖嶽 象

王業 むろみ 象 象

夫本 うの 象 象

假寝橋 一名外象橋 八雲所出

夫本 橋の名 象 象

櫻木神祠 表佐谷村

右群記曰 櫻木の宮 と宮 櫻木乃宮 櫻木乃宮

其箕川 表佐谷村 櫻木乃宮

夫本 夫本 櫻木乃宮

夫本 夫本 櫻木乃宮

夫本 夫本 櫻木乃宮

夫本 夫本 櫻木乃宮

夫本 夫本 櫻木乃宮

夫本 夫本 櫻木乃宮

夫本 夫本 櫻木乃宮

夫本 夫本 櫻木乃宮

夫本 夫本 櫻木乃宮

夫本 夫本 櫻木乃宮

花籠水 若狭山麓曰花籠里小池後の名もくく水あり

吉魚張 ふつ里のやうりるん

我宿の浅茅をさく吉魚張の夏笠の上小池あり

吉魚張の夏笠のうへ小池あり 家坊

御船 菜摘里の東南小あり外よりこれらにんをさすやらの取のぬ

御船のふらふら 吸着甚多險一歳王堂のち右の東小川んく

御船のふらふら 秋後撰

御船のふらふら 秋後撰

御船のふらふら 秋後撰

御船のふらふら 秋後撰

御船のふらふら 秋後撰

日晩 中莊菜花村

新勅撰 亭子院宮殿小池境一は清信小つまの

川上鹿鹽神社 標尾村南國橋二村の界小あり今大務明社と

橋井坐神社 橋井村小あり是日言と称に中莊七邑

宮籠 宮籠村小あり

壁の必し流下九重淵小臨んく善水練る者石頭より

く流と不随く下流小生くは飛流とく人々を壯觀

代々の帝もくはひあり

菅家御記 昌泰元年十月廿五日宮流小く遊ぶまをくらふ小日け

のいまは其流のありさほらりこに町をりたりくさう

くさうくさう流してさる石小のさる者のかつて

大なるる石のあひさるのまをたつてあをりてたつて

あひさるの石をさるく織るは娘の衣したちや

菅家御記 菅家右大臣

和州遊記曰

官遊ハ遊にわいばあ方た

大岩あり其向か

ちせ川にまぐさ

あまのたつら岩

より岩のえと

入りまぐさ風

まぐさくわ

あまの月川れ

座さこ万をり

まぐさ木たあり

まぐさくわ

まぐさくわ

まぐさくわ

まぐさくわ

まぐさくわ

まぐさくわ

まぐさくわ

まぐさくわ

まぐさくわ

まぐさくわ

出く人小刀を
續きつゝ死
つたあひひ
身たえなま
せあてて飛入
水中にまぐさ
入くまぐさ
くわくわ
まぐさくわ



後撰 宮の跡に又名ふむくつたりなる白旗の玉とひけむ 法皇御製

秋と小はるらん宮跡のたれ白池まらちやそらん 兼光法師

宮跡の境はまらちのひんちなる乃のわのまらち 兼光法師

懐風藻曰 萬丈崇巖削成秀千尋素濤逆折流 紀雄人

遊吉野川 欲訪鐘池越潭跡留連羨稻途槎洲 藤原萬里

友非于祿友賓是食霞賓從歌臨水智長嘯樂山仁 藤原萬里

清原 梁前招吟古峽上篋聲新琴樽猶未遊明月照河濱 藤原萬里

千載 くらしくも常り日やも吉野川流の流るるはわかなく 右大臣

新古今 暁ふらちや老ぬらん月影のほろほろふらちりなくさり 右大臣

篋橋 宮跡のまらち小葉橋 樋口の原 藤原萬里の御製

大河原辺 巡遊記曰宮跡よりいり小大河を巻くは名所あり 楠仁親王

新古今 みるは大河を巻く古柳うけと花月之縁まはるるなり 楠仁親王

隴御門 宮跡の秋はの宮なる 玉水隴宮古 藤原萬里の御製

今なき氷も解ぬ玉水の跡の宮古なるまらちなるらん 兼光法師

隴浦 藤原州曰京法師の原なるらん 兼光法師

多藝津の内 奇枕曰大和國 兼光法師

遊副川 吉野川の舊名を仁覺抄曰ゆへ川 兼光法師

夢回端 御料莊新住村あり 兼光法師

神明井 下園村の路傍小 大の原 下園村あり

法具良塚 今本村小あり 醍醐天皇の皇孫 建王の塚之洞本紀云々

新漢南墓 同村小あり 俗云大塚 剋く入 黒彦皇子 履輪王の塚之日本紀云々

今本寺 同村小あり 一名石光寺 又名弥勒寺 今本堂あり

俗者國太公寺 小復経ひ 蓮入法師 寛弘年中 初創ち

觀世名の靈爰 今蒙りて 小至りて 疾く光あり ありや

石面の教業 今蒙りて 小至りて 疾く光あり ありや

人王の業 今蒙りて 小至りて 疾く光あり ありや

祥瑞あり 今蒙りて 小至りて 疾く光あり ありや

藥水井 別驗あり 今蒙りて 小至りて 疾く光あり ありや

幡神祠 北莊七村の氏神也 今蒙りて 小至りて 疾く光あり ありや

比蘇寺 池田莊比曾村小あり 推古天皇二年四月 淡路島の海中より 佛の像あり 聖徳太子の御願也 今蒙りて 小至りて 疾く光あり ありや

洗水香 今蒙りて 小至りて 疾く光あり ありや

その花子子その暗い陸之水洗く久しんが沈水といひある

今く久しんが沈水といひあると奉りて今く久しんが沈水といひある

今く久しんが沈水といひあると奉りて今く久しんが沈水といひある

今く久しんが沈水といひあると奉りて今く久しんが沈水といひある

今く久しんが沈水といひあると奉りて今く久しんが沈水といひある

今く久しんが沈水といひあると奉りて今く久しんが沈水といひある

今く久しんが沈水といひあると奉りて今く久しんが沈水といひある

今く久しんが沈水といひあると奉りて今く久しんが沈水といひある

今く久しんが沈水といひあると奉りて今く久しんが沈水といひある

今く久しんが沈水といひあると奉りて今く久しんが沈水といひある

今く久しんが沈水といひあると奉りて今く久しんが沈水といひある

今く久しんが沈水といひあると奉りて今く久しんが沈水といひある

今く久しんが沈水といひあると奉りて今く久しんが沈水といひある

今く久しんが沈水といひあると奉りて今く久しんが沈水といひある

今く久しんが沈水といひあると奉りて今く久しんが沈水といひある

今く久しんが沈水といひあると奉りて今く久しんが沈水といひある



寶久百首
 東野の
 春の夜
 くらげ
 田か
 最定

安騎所 郡城下平野の所あり伝説曰
古所の所あり

東野 郡城下平野の所あり言塵集曰は東野の所あり安騎の所あり
藤原仲小督妻野安騎也同名わりの小野あり

鳥野 東野の煙れをいふ
鳥野の煙れをいふ

秋野川 下平野の所あり
下平野の所あり

下市名産餅餅 餅の形状小加なり
餅の形状小加なり

願行寺 下平野の所あり
下平野の所あり

立興寺 下平野の所あり
下平野の所あり

清水寺 下平野の所あり
下平野の所あり

笠木川 下平野の所あり
下平野の所あり

高算上人墓 下平野の所あり
下平野の所あり

鳥栖 中野の所あり一名

鳳閣寺 多岐村小あり境内に寶篋印塔あり銘曰正平二年二月建

茶金山 橋本村小あり奇岩高く聳一

倉瀧 黒瀬村小あり常學寺あり

後村上帝皇居 黒瀬村小あり俗小皇居所なり

春日神祠 向加名生村小ありは賀名生の里に後醍醐天皇御成道所

鎮國寺 向賀名生村小あり後醍醐天皇の

後醍醐天皇皇居 加名生村和田村小あり傍小華藏院の故址小古跡あり

丹生 丹生村小あり丹生川あり

丹生の水たたく川は月の影をこぼす

丹生の水たたく川は月の影をこぼす

丹生の水たたく川は月の影をこぼす

丹生の水たたく川は月の影をこぼす

丹生の水たたく川は月の影をこぼす

丹生の水たたく川は月の影をこぼす

丹生の水たたく川は月の影をこぼす

丹生川上神社 丹生村小あり近藤野村の氏社なり 系神國象女神あり

伊弉冉尊河邊雄のとも小やのれをひたひた其のりるん 紀 天武天皇白鳳

の同小土神植と那および水神國象なるうみり 紀 天武天皇白鳳

伊弉の系神ありとけ社小兩かを霖雨かやれをさるの勅使えられ

るの四元ふくふく又神武天皇の神宇小兒磯城とけ賊ありけり

帝是なる返落せんも牛牧殿免とるも丹生の川上小のほりて

天神地社とてひまのりて日本紀小月入る

丹生寺 丹生村 檀岳 善徳寺 丹生村小あり境内小安福了禪の墓あり

白銀嶽 古田莊夜中村小あり銀嶽の南に金嶽と小あり

波實神社 銀の冢あり今神藏宮と称に古田莊

檜の迫川 丹生川小あり

波比賣神社 檜村の西あり今美金山宮と称に境内小あり

鷹巢山 丹生村小あり今美金山宮と称に境内小あり

立川渡坐神祠 立川渡村小あり今天王と称を 禪龍寺 立川渡村

乘鞍山 本谷村小あり 白瀑布 本谷村小あり

備山 天川莊和田村小あり 惣門瀑布 坪の内村小あり

伊波多神社 和田村小あり今立和宮と称に

稲邑嶽 法門莊和田村小あり

朝鮮嶽 稲邑嶽の西あり

天川 名水あり水涸の上嶽より流るる洞川の北に流るる合寺あり

龍泉寺 洞小あり上のり人多くここに後修寺あり清泉あり

燈籠洞 洞小あり後修寺の西あり

將軍塚 十二村莊北侯村小あり石塚十三あり左右に羅列に里人毎年十月

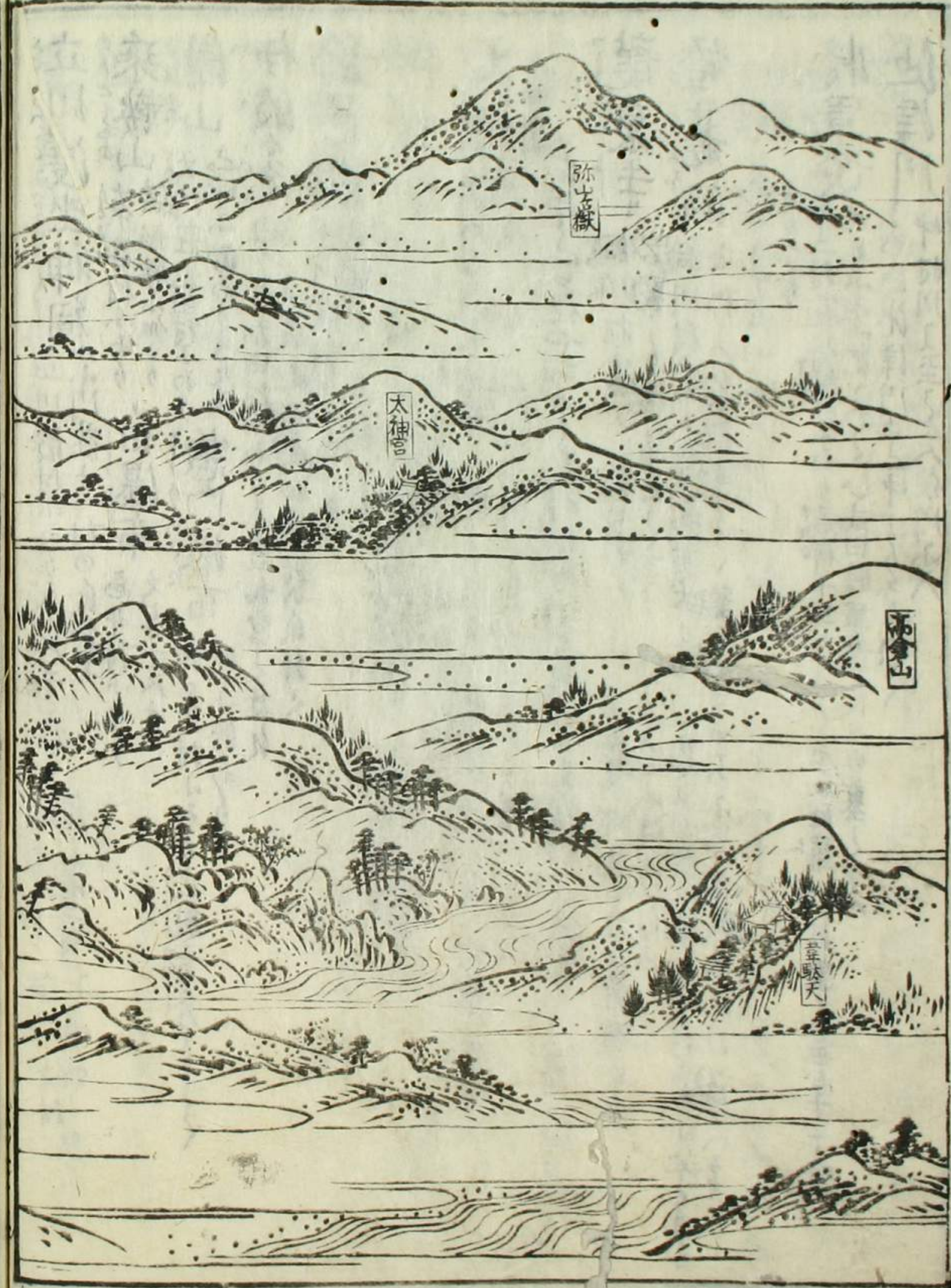
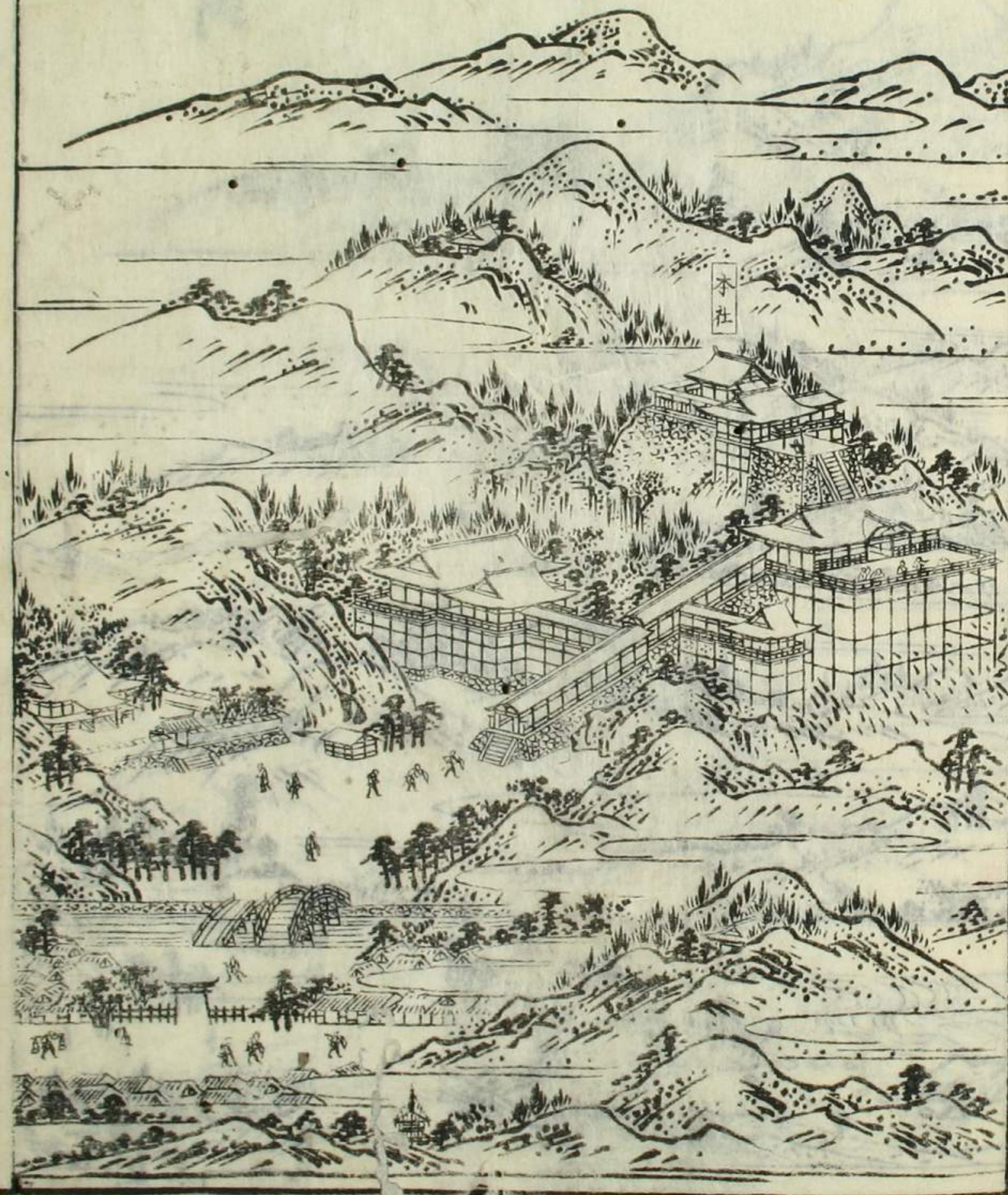
池津川 名原池津川の中一あり

長秋詠藻

古井のたやちるらんわの川ま乃つみんあ

長秋詠藻

大峯天河社



天何



天何
山白
新坊

天何

左東業寺の石
六の川は石原
入定
河海抄
入定



天何

琵琶山白飯寺

延暦坪内村 役行者大者の嶮路

之付とありて靈驗公待りありし小岩窟小津水つとふが

山光公のやとを願ふ琵琶の響ありて人心の迷を去る

多賊天女現しありし其尊像公彫刻し神靈公法

天川多賊天足之又宗像神祠し崇む天川莊

氏神の正殿拜殿御厨所十二の小祠四箇の怪石

あり寺公女者院とも號と觀者堂地藏堂藥師堂

護摩堂二重寶塔僧舎之宇 理性院神福寺 あり又護

寓居の所公御所坊といふ別未述院 又什寶蘇悉地

書と僧正仁海之化疏一章は山門秀海派と其外正平

繪首元中九年中務卿の令旨あり

池津川神祠 池付門村小あり 乾之 坂本村小あり

紀列の界あり

小壺山 比津川紫園二村の上あり一名金山又高と

荒神岳 北俣地は二村の界あり

四祈明神祠 十津川莊折立村小一座あり小原村小一座あり

藥師堂 十二村莊堂平村 王置川 多源王置の山中あり

王置神祠 王置の山あり壽事紀曰紀伊國忌部遠祖手帆置負

別王置氏より僧坊四舎あり

十津川 名水あり天の川の下流より其村は終る

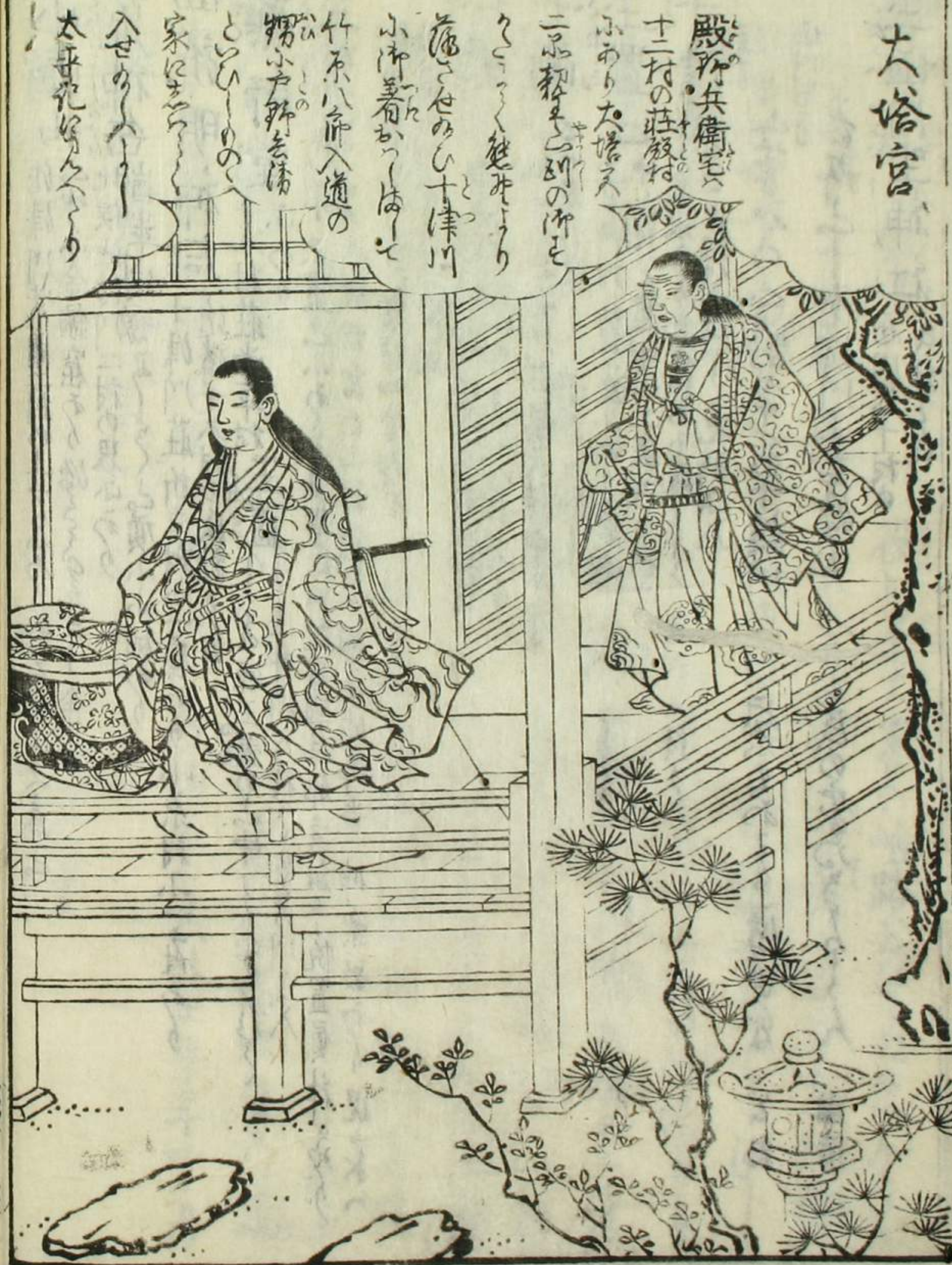
文本 二芳野のふれあやの十津川の山門宗もあまは世に

玉垣内坐神社 西川谷十村の

行者堂 長親王 延乃殿 年中乃

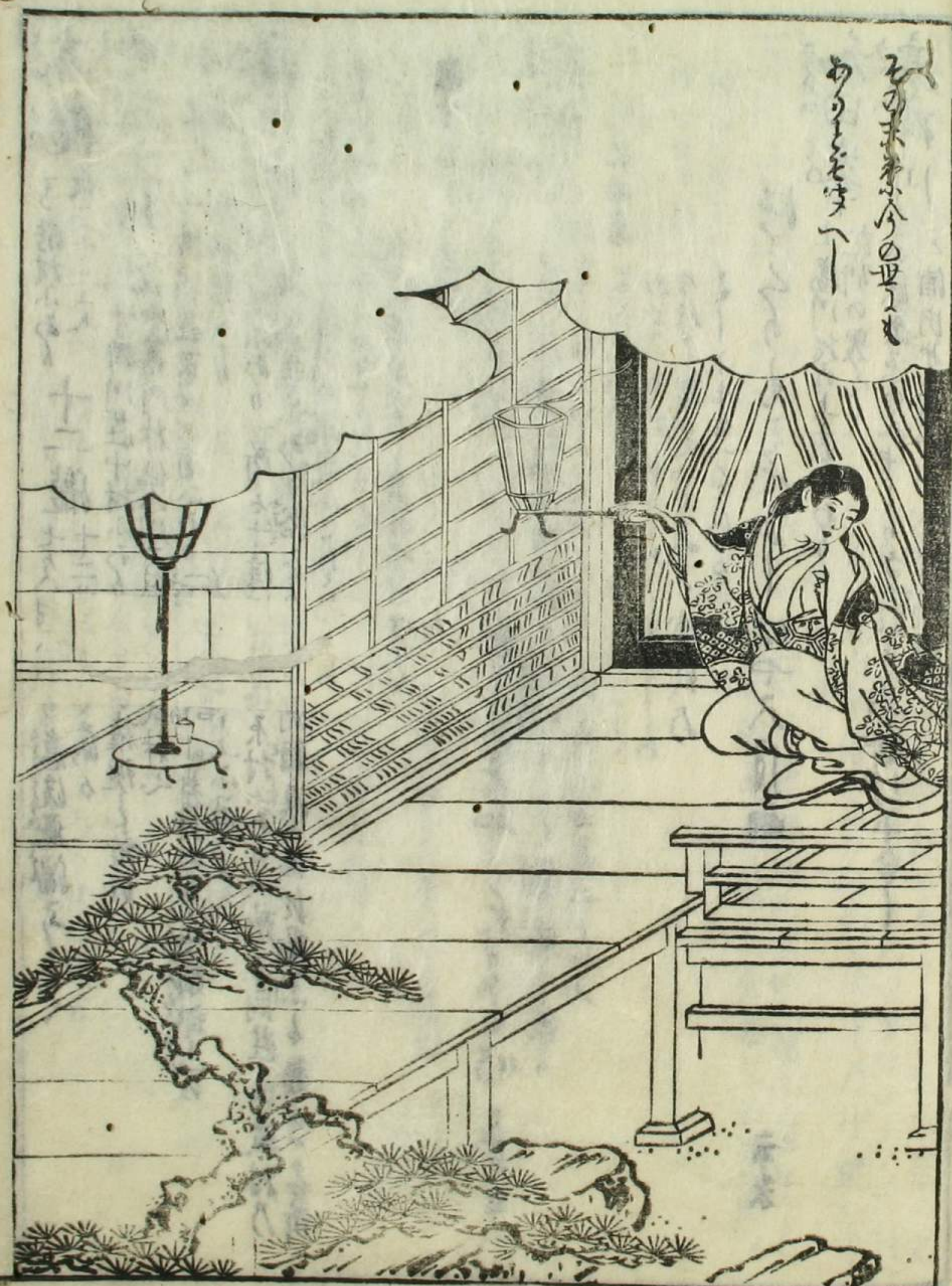
十一村

大塔宮



殿所兵衛宅
十二村の莊後村
小あり大塔宮
二品親王の御所と
くさくさ能きより
藤させのし十津川
小津着かつはり
竹系八筋入道の
物小方新去清
としいの
家にまら
入せのへり
太平記のんり

その末末分の世も
あつとをまへ



高瀬 勝村小あり 十二瀬 七久村小あり急流飛瀨あり

中村坐神社 十津川莊中村小あり今主女権現と称す

小松 十津川莊葛川の南小あり 行者高 小松村あり 巖部

湯原温泉 東泉寺小あり 浴する時々別癒疾は治る湯系と類字を所

類字を所玉葉集

湯の系小崎菅人川つごとく妹小く入るをくくたをくく

無終 十津川莊兼畑村西南小あり谷幽うく霧遠一故

和泉集 大和紀傳のさひそる坂

ほろりもろそろ一坂や八月雨

和田家 上湯川村の上小あり

菅瀬川 小合

白龍山寶泉寺 北山莊西村小あり十津川御世若うく其の龍の記

興泉寺 永亨九年丁巳二月建立向山車僧とまは興泉寺乃故跡

王住山龍川寺 北山莊小松村小あり日向南帝皇居の古址之後小當院

神位康正三主丁丑十二月二日又遺教經

菅瀬莊司宅址 小あり

竹原八布宅 谷原村小あり大塔宮護良親王と

尼妙圓宅 小あり

池原川 一名北山川と東川為川名地系小今一兼系の属村

佐田川 小あり

葛川溪 小あり

安曾川 小あり

柳本渡 小あり

上渡下渡 小あり

去来

山上祭と毎来四月八日
 より九月八日とて花人物
 その日の毎に家々を
 通りかゝりしるを安んず
 うりこ上りて六里あり



七月のひらけに當りて
 修驗道のふ伏入奉に
 峯中に二百八十餘の

岩窟あり猫蹄窟
 聖天窟菊窟笠窟
 扁蝠窟ふとハ大
 あり猫蹄窟ハ源

二の二冊余窟の
 産屋ありあり
 奥に池あり
 菊窟ハその

西坐神社 藤尾新宮と称れ西
 藤尾新宮と稱れ西
 藤尾新宮と稱れ西

茨精山 藤原村小ありこの形差峨とて紀列の畧と

瀧川 藤原村小あり十津川村小あり
 蘆原川 藤原村小あり

清納瀑布 十津川村大新村
 分坐神社 藤原村中戸の属村川分村

瀧尾坐神社 國王宮と稱れ天川村
 藤原村小あり

天神祠 二座あり一は引掛村小あり
 藤原村小あり

伯母子嶺 今ある村の南あり十津川村小あり
 藤原村小あり

大瀧 小瀧あり 泉小十津川村小あり

芋瀬 温泉水あり 東泉あり

崎坐神社 藤原村小あり

寶藏寺 十津川村小あり

平維盛墓 十津川村小あり古廿一日壽永年中乱か

佐久間信盛墓 十津川村武藏村光瑞寺小あり石碑あり

天正四年七月十二日葬に



白屋嶽 白屋村上方 高系山 高系村の上
 備後山 北山莊に合村あり 北山 鬼ヶ山 頂險峻
 出谷川 東山 庄 山 川 入
 西川 東山 庄 山 川 入
 小井籠 東山 庄 山 川 入
 備後川 東山 庄 山 川 入
 憩息石 東山 庄 山 川 入
 池峯池 東山 庄 山 川 入
 池峯坐神祠 東山 庄 山 川 入
 河津國王神祠 東山 庄 山 川 入
 林泉寺 東山 庄 山 川 入
 異像籠 東山 庄 山 川 入
 水合神祠 東山 庄 山 川 入

大者の林... 足く... 山家集

山家集

御山々山上嶽より東の... 嶽... 所謂御嶽神仙... 南の... 二十町... 轉法輪岳... 小池... 山家集

山家集

楢... 山家集... 山家集... 山家集

大狗岳より東の... 二里... 嶽... 仙嶽... 一里十四町... 又南二十五町... 王置権現立

山家集

山家集

山家集

拾遺

分り... 山家集... 山家集... 山家集... 山家集



しる北せん



世説白

嵩山の北小窟のり晋人々に

つる十日をうりありて室内

明とてく益のゆい時に

岩と圍むの老翁二人

あり晋人に一盞の酒菓

と進じ忽蜀中にゆくす

年一うくく格下小ゆり

又張華といふ人々をん

びやく所謂に館

飲とるものい

王漿いふ人

くかりのし

龍穴の石髓

うり果

長壽うりしと名

我初の上土獄の

山石窟もくしんら

山上藏王権現の役優婆塞金堂より一千日籠りて生身の菩薩の
 いのり得ひふ地藏尊の像地中より湧出りて人足優婆塞の所心工
 叶りぬりてあまの地藏菩薩と名付國大なる花をのびて其後
 大勢忿怒の像ありて右の所より出づる鐘なるり臂をいりけ
 九の所より五指なりて所腰にさへ人形一睨大いりて魔
 障除伏の相ありて一お脚をくくく天地の経緯ありて
 つるけ時人皇廿九代宣化天皇紀三年小あを優婆塞の所齡十五女
 うりてひひ十五童子涌出あり其八童子は小童子は小童子は
 第一檢増童子 阿闍佛垂跡 在禪師窟 第二後世童子 師子音王佛垂跡 在多輪窟
 第三虚空童子 虚空住佛垂跡 在望山石屋 第四劍光童子 帝相佛垂跡 在孫窟
 第五惡除童子 阿比陀佛垂跡 在王末窟 第六香精童子 多摩羅維跋耨檀佛垂跡 在深山
 第七多悲童子 雲自在佛垂跡 在水飲 第八除魔童子 釈迦牟尼佛垂跡 在吹鼓
 又七童子は葛城の所より涌出ありて是より湧出ありては西蕃
 西蕃

そのより尊像の錦帳の中小獅子と其涌出の所を秘せんて是れ
 優婆塞と天曆市村上天皇とてのくもつて二尊は他をたてて是れ
 安んじたりて人惡愛六十余別小志ありて彼は是れ此は非なり
 賞罰ありて千世累ありて人々心利一都て作明
 檢迹ありて七千余座の利生ありて是れは福とては益一
 亦無之の靈驗あり 太平記
 役優婆塞と大和國葛城上郡茅渚里の人名と高智氏氏より
 舒明天皇二十二年小出誕一若年よりひらくそい佛道に致
 し清平二十二年の時つたの志居小籠て藤衣夜にたのまふ
 くのいものとして孔雀明王の咒ありて五色のまふ小籠て他言小籠
 後二の鬼ありて水本なるをさつて小籠てはつて人のみ
 一とせつたの石橋ありて七言主神に咒縛其四乃
 龍入る龍樹大士とわくつてひふたつて人々をひまつておふ

紙巻かきまきのちよひあんく終つひふ文武天皇十一年八月七日壽齡
 六十八年三月廿八日入竹の巻まきは清少の巻まきは清少の巻まきは清少の巻まき
 後のちの巻まきは清少の巻まきは清少の巻まきは清少の巻まきは清少の巻まき
 通とほの巻まきは清少の巻まきは清少の巻まきは清少の巻まきは清少の巻まき
 未臨まゐりの巻まきは清少の巻まきは清少の巻まきは清少の巻まきは清少の巻まき
 今實元政二年小至こしの巻まきは清少の巻まきは清少の巻まきは清少の巻まき
 夫大老の役優婆塞うゑぼさいの巻まきは清少の巻まきは清少の巻まきは清少の巻まき
 中級ちゅうけいの巻まきは清少の巻まきは清少の巻まきは清少の巻まきは清少の巻まき
 僧正そうじょうの巻まきは清少の巻まきは清少の巻まきは清少の巻まきは清少の巻まき
古跡より中級の人と号し又細川より系年所々々々當とて
 今實元政二年小至の巻まきは清少の巻まきは清少の巻まきは清少の巻まきは清少の巻まき

大和名所圖會後



佩蘭清先生責序其文曰山跡園
 其從人皇之肇代鎮都久其
 美雉之地臺而切名之人傑不寡
 昔今云云地臺其之笠之山祝
 寶祚九五之福護四社之臺后宮
 八子之喜臨きりん之熾さか矣其人傑其
 首吉備氏仲奮之輩而往ゆき無標
 詔豈曰天府之圖哉 帝京果其

都而一千五百有餘葉也故名區
勝蹟頗多無或詠於和歌或咏於
詩賦亦不可舉而計矣越延寶中
村氏著和州舊跡幽考又近頃滕
高言欽撰大和名勝志而僅之分
許而沒無予近亦著都名取圖會
前後之西編侍其圖而以以之
蓉有告於予彼禹言之遺志迺
其草稿而以撰大和名取圖會七

釋迦嶽

御山の南五里一名轉法輪岳もり郡内の諸山より秀く最

雄峻

みそ遠く眺れば石碯状基石が布かぬ

善鬼里

北山莊十五村の内より本之當山御入峯乃時け里より止

扇風巖

善鬼村小あり遠く眺れば扇風かまるとなり

善鬼川

小代の邑に至る川小入

都藍尼

和別の人ありて遺蹟むら古新との標小都藍尼といへ

女あり金峯の麓今更の地ありて藏王権現の靈域とてを女人が
のほろろと我女ふかぐらに樹が得たりいづくかのやとて
あらんやとて大岩其の道の道小やけ忽雷電霹靂とて
通海かゝるか其の所々杖を捨たりたり其杖をたてり
大木とてけ又咒入ふ吐く龍かといふ其龍小糸とて
しとて至りて龍とてみえとて其都藍尼つとて

いりて巖^{いそ}なるをぬきてくぼみ又^お踏ぬきて中^{なかつ}をく微^こ
ふり龍^{りゆう}を池^{いけ}小^こ入^{いれ}に女^めをきき^き素^す素^す其^{その}終^はる所^{ところ}なる

大和名所圖會卷之六 大尾

百々

田大考〇

